

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ		
所在地	大阪府松原市東新町5-4-10		
自己評価作成日	平成30年12月8日	評価結果市町村受理日	平成31年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が退屈されないように入居者様の要望をお聞きし、行事を行い豊富に取り揃えて定期的に行事レクリエーションを行っている。特に毎年開催されている医療連携機関の日帰家族や友人などにも参加していただいています。毎年、大変満足されています。毎月です民館カフェに行きます。それにより、地域の方とふれあい楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「入居者様・ご家族様・職員また地域の方々全ての人々の尊厳を大切にすることを、事業所として、出入口や各ユニットの居間に掲示して、管理者と職員はその理念を共有して実践に。利用者とは、日常の会話の中から、家族等とは、来訪時や玄関に設置してある意見箱などから意見要望を聞き出すようにしている。趣味に関する事、ケアに関する事など、可能な限り迅速に対応している。天気の良い時は、近くのスーパーや公園まで散歩に出かける。家族の協力を得て外食や利用者の馴染みの処へに連れていくこともある。一年に一度は、パークで田辺温泉や舞子ピラなどへ遠出もしているなど外出支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての人の尊厳を尊重するという理念に基づき、わかりやすく場所に掲示するとともに、出勤時に認知症への対応を常に振り返り出来る様に心がけている。	「入居者様・ご家族様・職員また地域の方々全ての人の尊厳を大切にすると、事業所独自の理念を作り上げ、出入口や各ユニットの居間に掲示して、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の一人になれるように、積極的に学校や地域の人々との交流の機会を作り、公民館やホームで企画を行っている。	自治会に加入して、色々な行事に積極的に参加したり、事業所の行事に参加を呼び掛けています。公民館で行っている「いきいきサロン」で地域の人々と話し合ったり、事業所主催の納涼祭に地域の人々を招待している。しかし、地域の方々の参加が少ない。	地域との交流は、必要な時だけ行うのではなく、地域で必要とされる役割を積極的に担って行く必要がある。地域での認知症高齢者をかかえる家族の介護相談等、積極的な活動が求められる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H27年に松原グループホーム連絡会ができ、地域包括センターと連携をとり、公民館で認知症の人への理解やグループホームの概念など地域に向けて活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進委員会を開催し、家族と市職員で構成し、会議では利用者の状況やホーム内の出来事、行事などを出来るだけ、詳細に伝えています。	利用者・近隣に住む利用者家族・市担当職員、事業所職員、等が参加して、隔月に開催している。会議では、活動内容について、行事・介護・医療・事故等、細かな報告をした上で、それぞれに質問、意見、要望を受け改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会で市職員、包括センターからの事業所の実情や相談、研修の情報など、意見交換をしている。	2か月に一度の運営推進会議、グループホーム連絡会の他、月に一度は書類の更新申請等で訪問し色々相談したり、指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備しており、職員がいつでも回覧出来る様にしている。禁止の対象となる具体的な行為についても、いつでも見れる様にしている。	身体拘束適正化対策委員会を運営推進会議において開催している。基本的な考え方は、厚生労働省の「身体拘束ゼロへの手引き」による。研修会も年に2回計画し、安全を確保しながら自由な暮らしを支える工夫について学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待が見過ごされている事が無いように、入居者の様子を確認し注意を払っている。職員のストレスなどにも注意しいつでも話ができる様に心がけている。勉強会については、今後外部評価研修の受講を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおり、職員間で情報を共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要説明事項説明書・契約書も用いて丁寧に説明している。不安や疑問をもたれた時は詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に状況を随時報告している。玄関に意見箱を設置している。遠方の方には、手紙や電話で意見を求めており、月1回、近状をしている。その他、運営推進委員会で意見を交換して運営に反映させている。	利用者とは、日常の会話の中から、家族等とは、来訪時や玄関の意見箱、運営推進会議など、色々な機会で見聞を聞き出している。趣味に関する事、ケアに関する事など出された要望は可能な限り迅速に対応している。歩けるようにして欲しいという家族の要望に歩行器具を購入して歩行訓練を2人の職員で支援しているケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を設け、代表者も参加し、職員の意見や提案に限らず、疑問不安など、様々な事を話し合う機会を設けている。管理者は、毎日申し送りやフロアーの会議に参加し意見交換を行っている。	全体会議を毎月行い、入浴介助等個別介助の方法、行事の内容や業務改善の意見など、職員の意見をよく聞き、運営に反映させている。管理者、フロアリーダー、担当職員の連携が良くとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と連絡や相談など連絡をとり、職員の個々の実績など報告し把握に努めている。全体会議などで、各自が向上心をもってもらえる様な勉強会の提案やレクリエーションの提案などの協力し努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を順次受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と交流しており、意見交換を行っている。その他、H27年から松原グループホーム連絡会で交流を3ヶ月に1回行っており、意見交換を行っている。電話などでも相談を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に面談を行い、本人・家族に詳しくグループホームへの理解をしていただき、不安が出来るだけないように努め、アセスメントを行う要望など確認する様に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族との面談の機会を心掛け、意見や要望を拝聴できるよう対処している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を伺い、他職種からの意見を参考にした対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、役割をもつていただき、個々の能力に応じて、おやつを作ったり、洗い物や洗濯物を畳むなど一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設のイベントや日帰りバス旅行にできる限り、参加していただける様に日程を調整し本人と家族が楽しんで過ごしていただける様呼びかけをし絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームでは面会が可能な限り、自由にしていただいている。本人の要望で馴染みの場所へ散歩に行ったり、歩いてや車いすで買い物をしたりしている。	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、友人や馴染みの場所、喫茶店や美容院、買い物などへの訪問を、家族の協力を得ながら支援している。キーパーソンが遠方で来訪の少ない利用者には、事業所の職員が支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすい様に職員が間に入り、レクリエーションを通じ利用者同士が触れ合える様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからも、必要に応じて相談や支援に努めている。ほかのサービス利用の希望時等には、情報提供させてもらってフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメントをとり、本人の暮らしの希望や意向の把握を努めている。困難な場合は、今までの生活歴や家族から情報を得て、出来る限り本人の立場に立ったケアを努めている。	本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で生活歴を参考にしながら、食事の希望や、歩くようにしてほしいという家族の要望に歩行器を購入して職員2名で歩行訓練をするなど、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族に十分な聞き取りを行い、把握に努めている。必要に応じて在宅時のサービス関係者や介護支援相談専門員に情報提供を依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで、本人の状態を把握し、全員が確認出来るようにし、申し送りを確実にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットフロアで会議を行い、必要に応じて家族、関係者とも話し合い、意見を取り入れ計画を作成する様、努力している。	介護計画の期間は3ヶ月としている。月々のケアカンファレンスと3カ月毎のモニタリングで現状を把握した上で、家族の来訪時や電話で歩きたいなどの要望に、歩行器を購入して職員2名対応のプランに変更するなど、変化が起きた時には、担当者会議を開き、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録を活用し、介護経過に残し、フロア会議などで情報共有しモニタリングを行い計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族ニーズに出来る限り対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのスーパーへの買い物や散歩コースに出かけ知り合いの方との交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の提携医療機関についての説明をし、今までの本人のかかりつけ医をとの選択をしていただき、本人、家族がどのように医療を受けたいのかも、聞き取りを随時行っている。	入居契約時に、利用者本人や家族等の希望するかかりつけ医に決めている。内科以外の受診については、基本的には家族が同行し、報告を家族から受けることになっている。不可能なときには職員が同行し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、訪問看護師と連絡を取り、日常の情報や気づきなど、申し送りを行っている。個々の利用者が適切に看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、のマニュアルを整備し入退院時に情報提供書・看護サマリー・介護サマリー薬の情報提供を行っている。病院の地域医療連携室のソーシャルワーカーや病棟の看護師と連絡を取り、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期入院など重度化する前に、本人・家族・医師・看護師・職員を交え本人の思いを考慮しながら、話し合いの場を設けている。	重度化した場合の対応のあり方について、事業所の指針と同意書を作成、対応しうるケアについての説明をし、ターミナル期においても、支援方法を家族等と話し合いを重ねながら納得のいく支援をしている。看取り経験はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてのマニュアルを完備し、提携医療機関の訪問看護師による勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々と年2回消防署の元、訓練を行っている。	災害時における避難訓練や消火訓練を、利用者と共に年に2回行っている。災害に備えた備蓄品も整えられている。しかし、夜間を想定した地域の方々との避難協力体制に少し不安がある。	職員が利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを近隣の方(自治会)にお願いをして、避難訓練を実施し、いざという時に混乱しないような役割分担の確認が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念を念頭に置き、日々丁寧な対応をする様、指導している。プライバシー保護マニュアルを整備し、いつでも閲覧出来る様にしている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られた。個人ファイルも事務所の書棚に施錠して保管されている。研修会もプライバシーの保護、接遇マナーを年2回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず寄り添い聞くことを大切にして職員の考えではなく、利用者から自己決定出来る様にさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にし、その人らしいペースで生活を送っていただける様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容をりようしていただいている。希望があれば、近くの美容室にお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、おぼん拭きや食事の片付けを手伝っていただいている。行事の季節料理には工夫をしています。	食材業者から搬入の食材を厨房で職員が調理し、後片付けを利用者が手伝っている。週に一度は、おやつレクや行事食などを、利用者と職員が準備・後片づけを共に行っている。色々語りながらの楽しい食事風景が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体としては、食材業者に委託し、栄養士の管理の下、栄養バランス、量など個々の状況に応じて、随時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々により、必要に応じて口腔ケアを行っている。毎週訪問歯科による衛生管理、指導も行っている。初回は無料検診。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間やパターンがわかりやすい様に、排泄チェック表を設け、排泄パターンが把握しやすいようにしている。	利用者の排泄パターンやサインを職員は把握して、さりげなく誘導をし、一人ひとりに合った支援がされている。夜間は定期的に巡回して、おむつ交換やパット交換など、安眠を重視した排泄介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の起床時の冷水や配茶の時間に食物繊維の多い飲み物や食べ物を提供したり、水分がより多く摂取できるような機会の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は指定している。入浴前に健康チェックをし、体調が優れない場合、他の日に柔軟に対応している。入浴を楽しんでいただけ様、季節の入浴剤を使用している。	基本的には入浴日は週2回としているが、午前中を中心として毎日沸かしている。本人の希望を聞き、入浴剤を使用し季節湯を楽しむこともある。入浴拒否の利用者には、毎日、声掛けをし気分が乗った時を見て、優先的に入浴介助を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを尊重し体調の変化を考慮して休息をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品については、処方時変更時など薬局の薬剤師や訪問看護師に相談したりしている。職員にはわかりやすい様に、介護記録にファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントでや本氏に聞き取り調査を行い、把握に努め、希望があれば、一緒に買い物に行く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々、散歩は行く様になっている。希望があれば、スーパーや公園に行ったりしている。	天気の良い時は、近くのスーパーや公園まで散歩に出かける様になっている。家族の協力を得て外食や利用者の馴染みの処へに連れていくこともある。一年に一度は、日帰りバスツアーで田辺温泉や舞子ビラなどへ遠出もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が、入居者には難しい為、こちらで管理しているが、一部、お金を持つ事で安心される方がいる為、もっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り本人の希望に添える様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有しているフロアは季節感を感じとれる様、飾りつけなど、配慮し工夫を兼ねている。	ゆったりしたリビングルームでは、利用者それぞれがテレビを見たり仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。壁には利用者や職員の作った作品の展示があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が間に入り、利用者同士が穏やかに過ごせる様に配慮している。リビングにソファを設置しており、横になられたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室では、入居時に、本人や家族と相談し馴染みの物や家具などご持参いただき、本人の意向を添える様に、配慮している。	広くゆったりした居室で、洗面台とクローゼットがある。利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、今までの生活習慣に合わせて、自由に配置するなど、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。仏壇やソファを持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の導線について十分に職員間で話し合い、家具の配置など、配慮し安全に生活出来る様に心掛けている。		